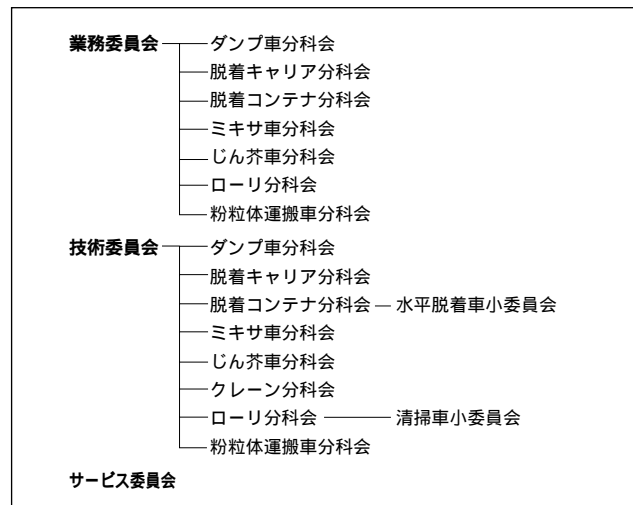


特装部会

多種多様な特装車を 分科会組織で対応

1. 組織

特装部会は会員46社が加入している大きな部会であり、3委員会、15の分科会を組織して活動している。



2. 活動内容例

(1) 多様な特装車への法規対応調整

最近の主な活動内容については、前述のとおり多種多様な用途、形状の車種を扱っているため、昨年9月から適用された「新基準の突入防止装置」また、本年1月から適用されている「新基準の灯火器類」について、国土交通省および自動車検査法人に対して、2年越しで事前に適用緩和の要望を提出するとともに、図面、カタログ等により具体的な説明を繰り返し理解を求めた結果、適用時期直前に承認を受けることができた。

(2) 自主基準等の審査による行政協力等

ミキサドラム

ミキサ会員がミキサ車の新型ドラムを製作する際には、事前に審査委員会でドラムの容量・重心位置等を審査した後、国土交通省に型式届出を行っている。

また新年度初めには、会員が製造しているドラム一覧表の冊子を作成して全国の運輸局等に配布し、新規検査等の容易化および迅速化を図っている。

第2回目は、規模も大きく、活動している分科会も多岐にわたる「特装部会」です。

じん芥荷箱

じん芥車会員がじん芥車の新型荷箱を製作する際には、事前に荷箱の容量・重心位置等を事務局に提出後、国土交通省に型式届出を行っている。

また、ミキサドラム同様、毎年荷箱一覧表の冊子を作成して全国の運輸局等に配布し、新規検査等の容易化及び迅速化を図っている。

消防学校

じん芥車会員は、作業員がじん芥車によるごみ収集時に巻き込まれ事故を起こした場合や火災が発生した場合、安全、かつ、迅速に救出活動や消火活動ができるように、各県の消防学校の要請により、座学及び実車による講習会を実施している。

消防庁主催の検討会にローリ技術委員会主査が参画
消防庁主催の「危険物保安に関する技術基準の性能規定導入・推進に係る調査検討会」の委員として委嘱され意見反映した。

危険物保安技術協会主催の「移動タンク貯蔵所の性能規定化ワーキンググループ」の委員として委嘱され意見反映した。

(3) 自主基準によるコンテナ互換性確認

脱着キャリア分科会は、「脱着装置付コンテナ自動車の解説」を策定、改正し、キャリアおよびコンテナについて、会員間で製作したものの互換性を確認することにより、流通の合理化、効率化に寄与している。

(4) 架装物の年次検査・点検の広報活動

サービス委員会は、特装車架装物11車種のメンテナンスニュースおよび架装物の年次検査・点検の促進用ポスターを作成し、広報活動を実施している。

お客様の声に耳を傾け 更なる特装車の発展を

最近の特装を取り巻く環境について教えてください。
まず市場動向ですが、車体工業会データによると平成17年度の特装車の生産台数は、前年比5.9%増の82,220台になっており、これは自動車NOx・PM法などの排出ガス規制による買い替え需要の増加が主な要因と考えられます。しかし、今後は買い替え需要が一段落し、減少傾向になると予想されるため、国内の特装車市場が大きく成長することへの期待感は薄くなるを得ません。従って需要拡大には、海外へも目を向けることが必要となります。また、コスト面においても更なる鋼材の値上げは、大半が鉄でできている特装車にとって厳しいところが出てきています。

一方、環境問題への対応は、各事業者が社会的責務として推進していかなければなりません。大変厳しい状況ですが、車体工業会の環境委員会の協力を得ながら進めていきたいと思っています。

特装部会の主要課題や取り組み内容についてお聞かせください。

特装部会の主要課題としては、関係法令の改正等に伴う適切な対応及び適用緩和要請があります。また、サービス関係では、お客様に特装車を安全に、かつ適正な状態でご使用いただくために、ポスターおよびメンテナンスニュースで年次検査や点検の実施について広報も重要となっています。一方、地球温暖化対策やリサイクル対応等の環境への配慮もますます重要になっており、商用車架装物リサイクルの自主取り組みの中で進められている「車体工業会環境基準適合ラベル」



の貼付率の向上、環境負荷物質の削減や、地球温暖化に関するCO₂排出量ならびに産業廃棄物処分量の削減を行っていく必要があります。

当会全体の課題に、会員カバー率向上がありますが特装部会として、どのように取り組む計画ですか？
会員カバー率の向上には、まず関連する事業者を抽出し、車体工業会及び特装部会に加入するメリットなどを説明するとともに、理解を求めなければなりません。併せて加入を促進し、業界全体のレベルアップを図る必要があります。

具体的には、経済情勢や法規制に係る情報の提供と対応策の検討を行うことや、特装部会の各分科会において作成されている基準類の充実を図っていきます。それにより製品の安全性や信頼性を向上させたり、各事業者が作る製品のレベルアップが図れるというような魅力を理解していただき、入会を勧めたいと考えております。

部会長個人としての、今後の計画や抱負についてお聞かせください。

“荷物を運ぶ”という基本機能のトラックが、経済活動の変化や効率化の追求などにより、さまざまな作業目的に合わせた機能を装備するようになり、ダンプトラックやミキサトラック、じん芥車等ができてきたわけです。これが特装車の原点であり、お客様の声を聞くことによって発展したと言っても良いでしょう。今後もこれら特装車がより発展するには、常にお客様の要望に合わせた設計・開発をしていくことが肝要と考えていますが、何よりも会員各社の自助努力によるところが大きく、お互いに切磋琢磨しながら、活力のある車体工業会ならびに特装部会になるよう力になればと思っています。

Profile -----

- ◆業務経歴
 - 1970年 4月 新明和工業㈱ 入社
 - 2001年 6月 新明和工業㈱ 理事 特装車営業本部長
 - 2003年 4月 新明和工業㈱ 執行役員 特装車営業本部長
 - 2005年 4月 新明和工業㈱ 常務執行役員 特装車事業部長
- ◆車工会歴
 - 2004年 7月 理事 特装部会長
- ◆趣味
 - ゴルフ、音楽鑑賞
- ◆人物寸評
 - 相手の意見にきちんと耳を傾け、周囲を和ませるのが得意。また、ガッシリした威圧感を漂わせる雰囲気とは裏腹に、実は繊細かつ寛大で気さくなお人柄です。